

# Kurume University Medical Center 久留米大学医療センター

# news

2009.09

No.012



## 私たちの理念

心が通い、信頼される医療

## 私たちのめざす医療

1. 皆さまの権利とプライバシーを尊重します。
2. 充分な説明と同意のもとに、最新で安全な医療を行います。
3. 地域に開かれた病院として、健康と福祉の向上に努めます。
4. 確かな医療技術と豊かな人間性を備えた医療人を育てます。

## Contents

- 医療センター開設15周年を迎えて
- 開設15周年記念講演会について
- 緑のカーテンと省エネについて
- 医用画像フィルムレス化について
- なぜなに嚥下☆Q & A (第8回)

〈久留米大学医療センターホームページ〉

<http://iryo.kurume-u.ac.jp/>

## 医療センター開設15周年を迎えて

副病院長 福田 孝昭

残暑お見舞い申し上げます。

副院長で、リウマチ膠原病センターを担当しております福田孝昭と申します。

医療センター開設15周年を迎え、一言ご挨拶申し上げます。

久留米大学医療センターは、厚生省（現厚生労働省）より旧国立久留米病院の移譲を受け、1994年（平成6年）7月1日に開院しました。本当に早いもので、10年ひと昔と申しますが、2009年7月で開設15周年を迎えることができました。これもひとえに、開設準備の頃から多くの職員や関連業者の方々のご努力のたまものであるとともに、これまで温かく見守ってくださった、また受診くださった地域住民の方々のおかげであると感謝する次第です。



これを機会に、医療センターの歴史を少しだってみたいと思います。国立病院の前身は、1897年までさかのぼり、歩兵第48連隊医務室内に開設された三等衛戍病院に始まります。

その後、変遷して1935年に久留米陸軍病院、1945年には国立久留米病院に移行しました。久留米大学医療センター開設時は、戸嶋裕徳病院長のもと、診療科14科、専任医師17人での開院でした。それから1995年に199床、同5月には248床へと増床し、私がリウマチ膠原病センターに赴任するときには現在と同じ300床になりました。病院も2007年5月に新しく生まれ変わり、病院長は現在5代目となります。先日建て替わった新しい病院の開設準備をされた2代目院長である中山健輔先生がお亡くなりになりました。中山先生は病院新設時にはすでに退官されていましたが、ごく最近まで整形外科・リウマチ科の外来を応援診療されていましたのに、非常に残念であります。ご冥福をお祈り致します。私は中山先生にお誘いを受けて医療センターに赴任いたしましたので、先生なしでは現在の私も無いと思っております。

さて、私がリウマチ膠原病を担当するように申し付かって赴任したのが1996年4月です。14年が過ぎました。関節リウマチ(RA)患者さんがその多くを占めていますが、この数年で大きな治療の進歩がありました。RAの原因はまだ不明ながら、背景に存在する病態がかなり明らかにされ、炎症性サイトカインに対する薬剤が4種類使えるようになりました。TNFをターゲットとして3剤、IL-6をターゲットに1剤です。これらの薬剤は従来の抗リウマチ剤に比べて、炎症を抑える効果発現が速く、関節破壊を抑制が出来ます。もちろん、従来の抗リウマチ剤でも炎症を抑えることは出来ましたが、効果発現までに数ヶ月を要し、たとえ臨床的寛解まで到達しても、時間と共に関節の破壊が進行しました。いわゆる画像的寛解は出来なかったのです。また、これらの薬剤を発症早期に使用すると、うまく行けば薬剤フリーの寛解まで持つていけることも明らかになっています。ただ、これらの薬剤が高価であることが問題ですが、出来るだけ早いうちから専門的治療をお勧めいたします。

開設15周年を迎えた医療センターですが、2009年には病院機能評価認定を取得し、新しくがんワクチン外来・先進漢方治療外来を開設して更に発展し、確かな医療技術と人間性を備えた医療人を育て、最新で安全な医療を行い、心の通った、信頼される医療を目指した病院になるよう職員一同努力していく所存です。これからも宜しくお願ひ致します。

## 開設15周年記念講演会について

平成21年7月4日（土）に医療センター附属棟2階大ホールにおいて、『第4回市民健康フォーラム』を開催いたしました。平成18年から行ってきた市民健康フォーラムも今年で第4回目の開催であるとともに、平成10年7月1日に厚生省（現厚生労働省）から旧国立久留米病院の移譲を受け、久留米大学医療センターとして今年で開設15周年であることから、開設15周年記念講演会を開催いたしました。

開設15周年記念講演会ということで、本年4月より医療センターにて診療を行っています、"がんワクチン外来"の由谷 茂講師と"先進漢方治療外来"の恵紙英昭准教授、そして久留米大学高次脳疾患研究所の森田喜一郎教授に講演いただきました。

まず、"がんワクチン外来"の由谷講師が「がんワクチン情報について」と題し、免疫学の歴史から免疫療法とはどういうものなのかなというわかりやすい説明をされたあと、久留米大学病院にて行っているペプチドワクチン臨床試験を医療センターでも開始し、患者さん一人ひとり異なるがんに立ち向かおうとしている免疫細胞を応援する（免疫機能の増強）テラーメイドペプチドワクチンによってがん治療を行っているという講演をいただきました。

続いて、"先進漢方治療外来"の恵紙准教授が「漢方との上手な付き合い方」と題し、漢方医学とは全体を診て自然治癒力の回復を主眼としており、西洋医学の相違点や漢方治療の適応病態群などについて説明されたあと、葛根湯（かっこんとう）や苓桂朮甘湯（りょうけいじゅつかんとう）などを用いる場合の具体的な治療方法や漢方薬を服用する上での注意点などを講演いただきました。

最後に、久留米大学高次脳疾患研究所の森田教授が「認知症の早期発見・早期治療」と題し、"認知症は怖くない!!"をテーマに、認知症は早期発見・早期治療が大切であり、認識があるうちに早めに受診することや発症した場合の治療にあたっての注意点などをバナナジュースを用いて楽しくわかりやすく説明され、これから認知症などにならないためにも【笑う】・【視る】・【話す】が非常に重要であるとの講演をいただきました。

今年もたくさんの市民の皆様にご来場いただき、誠にありがとうございました。今回の市民健康フォーラムでは、毎年行っておりました健康測定と個別相談は行いませんでしたので、これを楽しみにされていた方々には大変申し訳なく思っております。また、後援いただきました久留米市、久留米医師会、久留米学術研究都市づくり推進協議会の皆様にもこの場を借りて御礼申し上げます。

これからも、医療センターのめざす医療でもある『地域に開かれた病院として、健康と福祉の向上に努めます』の通り、地域に根ざした病院として皆様の健康・福祉の向上を第一に考え、来年も市民健康フォーラムを開催いたしますので、その際には是非、足を運んでいただきますよう宜しくお願ひいたします。



15周年記念講演会会場



「がんワクチン情報について」  
由谷 茂講師



「漢方との上手な付き合い方」  
恵紙英昭准教授



「認知症の早期発見・早期治療」  
森田喜一郎教授

## 緑のカーテンと省エネについて

施設課 奥永 則之

医療センターは光と風をテーマに新築しており、大変気持ちの良い空間が出来ていますが、玄関ホールからリハビリテーションセンターまでの廊下等が全面ガラスのため、夏場に時刻によっては外光が差しこみ、暑くなっていました。そこで、今年は省エネルギーと環境対策として緑のカーテンを作りました。

緑のカーテンとはアサガオ、ゴーヤなどつる性の植物を窓の外に置くことで夏の陽射しを和らげ、また植物の葉からの蒸散作用によって室温の上昇を抑える自然のカーテンです。今年4月に窓の外にネットを張り、アサガオとゴーヤを植え、肥料、水やりを行って現在ではアサガオ、ゴーヤも大きくなり、日陰を作ってくれるようになりました。

また、アサガオの花は咲き、ゴーヤも実を付け、収穫できるようになります。通る方々の目を楽しませてくれています。

緑のカーテンは省エネルギーと毎日の楽しみをくれます。皆さんも是非、自宅で緑のカーテンを作って、楽しみながら地球温暖化防止に取り組んでください。

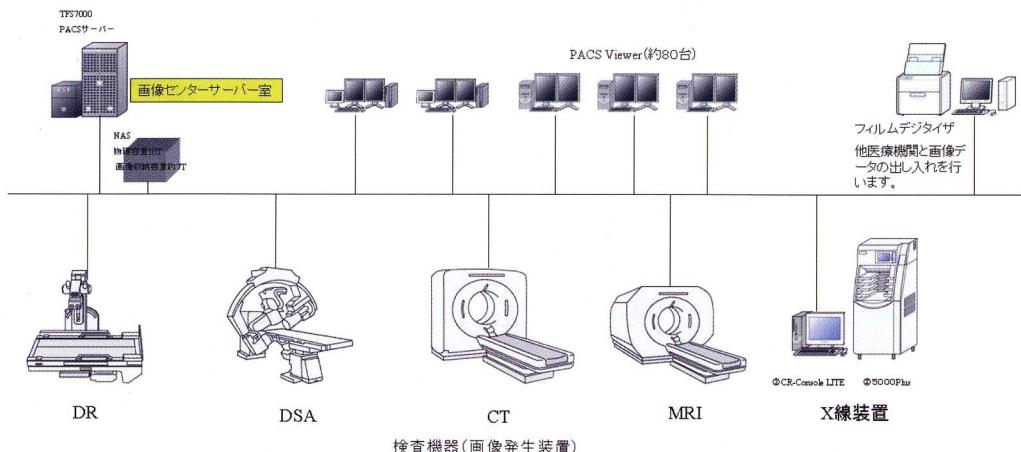


## 医用画像フィルムレス化について

画像センター 河村 政秀

本年8月より医用画像フィルムレス化いたしました。これに伴いPACSシステムを導入いたしました。(PACS=Picture Archiving and Communication Systemとは、主に医療において使われるシステムで、CT、MRI、X線フィルムなどの医療用画像データをネットワークでやりとりすることを言います。) 本院のシステムは10テラバイトの物理容量を持つ画像保管サーバーを中心として、画像参照用端末を約80台配置しています。

PACSシステム導入により、患者さんには検査が終了してから数分後には画像参照用端末にて検査画像を閲覧することができるようになりました。また、過去画像との比較などは院内の端末からどこでも出来るようになるため、資料庫への出し入れの必要がなくなるため、診療効率が向上すると考えています。



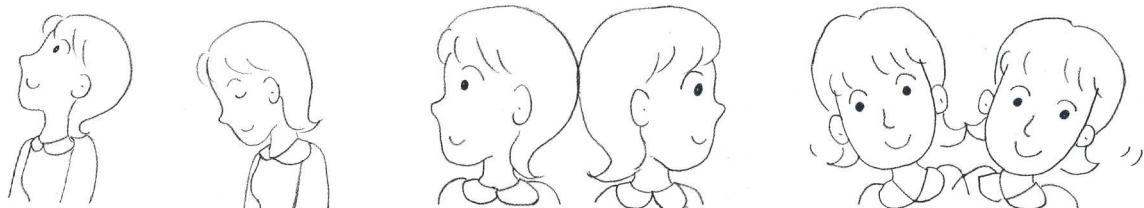
## なぜなに！？嚥下★（第8回）

### 《自宅でできる嚥下体操》

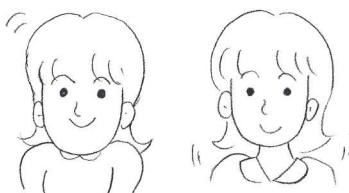
☆食事前に、嚥下体操などで首や口の筋肉の緊張をとり、リラックスした状態で食事を開始することは、誤嚥の防止にとても有効です。以下に、嚥下体操の一部をご紹介しますので、ご参考ください。

#### ①首・肩のリラクセーション

首を前後・左右に突っ張りを感じるまで、ゆっくり伸ばすように動かす

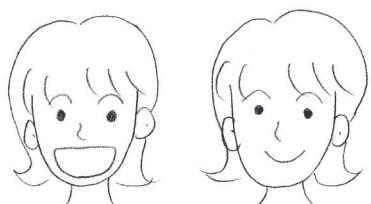


肩をゆっくり上げて、ストンと落とす

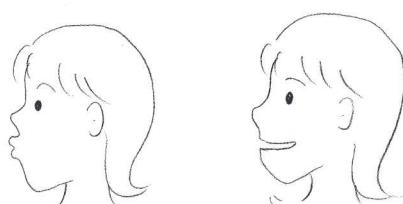


#### ②口の体操

口を大きく開けて、パッと閉じる



口を突き出して、横に引く



#### ③舌の体操



舌を前に出して、引っ込める

左右の口角に付ける

上下に動かす

#### ④その他の練習

\*発声練習：「パッ・パッ・パッ…」「タッ・タッ・タッ…」「カッ・カッ・カッ…」  
と口を大きく動かして発音する。

\*深呼吸：体操の最初と最後に行い、ゆっくりと呼吸を整える。

#### 《今回のポイント》

食事前に行う習慣を付け、安全でおいしい食事を楽しみましょう。

上記以外の嚥下訓練については、当院や専門の病院へ一度ご連絡ください。

(参考)「摂食・嚥下障害の患者さんと家族のために」西尾正輝 著  
「Monthly Book Medical Rehabilitation No.2」

## 外来診療一覧

平成21年9月1日現在

診療科名	月	火	水	木	金
一般内科	堀まいさ	打和大幹	寺田貴臣	松岡昌信 (リウマチ膠原病センター)	橋本修
呼吸器科(午前) (午後)		松岡昌信			松本久美
消化器科	堀まいさ 原田和徳 原田晴仁 寺田貴臣	田中正俊 橋本修 兼行 聰	由谷茂 原田和徳	田中正俊 堀まいさ	橋本修 倉岡圭
循環器科	池田久雄 原田晴仁 寺田貴臣	池田久雄 加藤宏司 打和大幹	池田久雄 加藤宏司 寺田貴臣	原田晴仁 加藤宏司 森田博彦	原田晴仁 森田博彦 打和大幹
精神科	近間浩史	近間浩史		近間浩史	近間浩史
小児科	伊藤雄平 廣島淳	牛島高介 廣島淳	伊藤雄平 廣島淳	牛島高介 廣島淳	伊藤雄平 牛島高介 廣島淳
(専門外来)	腎臓	腎臓 内分泌	腎臓	アトピー 消化器・肝臓	腎臓 小児成人病
外科	村上直孝 緒方裕	笠富輝男 内田信治 肝胆脾	矢原敏郎 五反田幸人 緒方裕	山口倫 村上英嗣 山口圭三	矢原敏郎 村上直孝 内田信治 肝胆脾
整形外科 関節外科センター (午前)	樋口富士男 石橋裕美子 下山十喜子	大川孝浩 久米慎一郎 吉田史郎	樋口富士男 後藤昌史 石橋裕美子	大川孝浩 久米慎一郎	樋口富士男 下山十喜子
	(午後) 鈴木康一 (第2、4)	(午後) 後藤昌史 (14:00~16:00で専門外来のみ) 吉田史郎		(午後) 大川孝浩 (第1、3の午後のみ予約制) 後藤昌史 (14:00~16:00で専門外来のみ) 久米慎一郎 (第1、3、4、5) 稗田寛 (第2)	
リウマチ・ 膠原病センター	福田孝昭 松岡昌信	福田孝昭 本多靖洋 (午後) 矢野真弓	本多靖洋 鮎川竜祐	福田孝昭 矢野真弓 松岡昌信 (一般内科)	福田孝昭 本多靖洋
リハビリテーション科	松瀬博夫	吉光一浩 志波直人 (午後のみで、予約制)	吉光一浩	柳東次郎 馬場敦子 (第1、3、5)	馬場敦子
泌尿器科	江口善朗	江口善朗	名切信	名切信	江口善朗
産婦人科	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則	園田重則
眼科	渡邊志穂	渡邊志穂	渡邊志穂 斜弱外來午前・午後	渡邊志穂 斜弱外來午後のみ	渡邊志穂
耳鼻咽喉科	松永次郎	松永次郎	松永次郎	松永次郎	池園圭子
放射線科	池園圭子 (画像診断)	池園圭子	池園圭子	池園圭子	池園圭子
麻酔科	入江将之			入江将之	入江将之
がんワクチン	山中龍也	由谷茂	山中龍也	由谷茂 山中龍也 (肝炎ワクチン)	由谷茂
先進漢方治療 (午前のみ)	恵紙英昭	恵紙英昭 藤本剛史	恵紙英昭	八木実	佐野智美

受付時間：午前8時30分～午前11時迄 診療日：月～金 休診日：土・日・祭日・年末・年始（12/29～1/3）・盆休（8/15）

## 編集後記

暑い夏も終わり、ふんわり浮かんでゆっくり流れる雲に、秋の趣を感じるようになりました。病室や屋上庭園から一望できる山々や空が、時に患者さんやご家族の心を癒すことを看護の現場で感じことがあります。

今年で医療センターも開設15周年を迎え、その時々の風景を思い起こすと年々大きく変化していることを実感しています。医療センターで療養生活を過ごされる方々へ、心暖まる看護を提供できるよう更に努力していきたいと思います。  
(文責：3階西入院棟：大友 裕子)